

STAGE+を楽しむ(174)(HP 収録)  
—クライバーのベートーヴェン交響曲第 4 番—

1. 始めに

前報(173)に引き続き、STAGE+のクライバーのベートーヴェン交響曲第 4 番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はクライバーのベートーヴェン交響曲第 4 番の演奏を選びました。

カルロス・クライバー、その天賦の才：ベートーヴェン交響曲第 4 番  
コンサートヘボウ管弦楽団

収録日：1983 年 1 月 1 日

20 世紀の終わり頃には神格化されていた名匠カルロス・クライバーですが、晩年はめったに指揮台に立たなくなり、演奏会の予定が発表されるだけで大きな話題を呼ぶ程でした。残した録音の数も非常に少なく、いずれも今なお最高の名盤として圧倒的な支持を得ています。ベートーヴェンの交響曲第 4 番も正規盤としてはバイエルン国立管弦楽団との 1982 年のライブ音源しかなく、それだけに 1983 年 10 月に収録されたこのロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団との演奏映像は貴重なものです。急速なムードの変化と機知に富んだフレーズを持つこの作品は、クライバーの天才的な指揮の素振りを後世に伝える記録として理想的です。

演奏：

ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団

指揮：

カルロス・クライバー

曲目：

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 交響曲第 4 番変ロ長調 op. 60



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

前報(169)の交響曲第7番に続いてのクライバー指揮コンサートヘボウのベートーヴェンです。傑作の誉れ高い3番と5番に挟まれて、軽快さに富んではいるものの、やや地味な存在の4番ですが、クライバーにかかると躍動的で疾走するような表情も見せ、指揮をみているだけでも曲の聴きどころが伝わってくるようです。



### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、クライバーのリードによる、地味な存在の 4 番の面白さが味わえます。

以上